

2014

Vol.19

8月11日

花水木

ハナミズキ

Kawaguchi Municipal
Medical Center

特集

救急外来について

p ② ~ p ③

目次

- p ④ 病院の取り組み:『お薬手帳』携帯して病院へ
- p ⑤ 院長就任のごあいさつ
- p ⑤ KMMC Report:
採血・生理機能検査総合受付システム導入へ
- p ⑥ 部署紹介:検査科
- p ⑦ KMMC Report:七夕コンサート
- p ⑦ 医師の交代のお知らせ
- p ⑧ 四季の移ろい:季節を感じて、リフレッシュ
- p ⑧ ミニギャラリー3ヵ月

基本理念

川口市立医療センター
イメージキャラクター
「みみたース」



市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

救急外来について

救急医療とは

救急と一口に言っても、1次救急(軽症)、2次救急(中等症)、3次救急(重症)に便宜的に分けられています。また救命救急センターと救急外来、さてその違いを皆さんはご存知でしょうか？テレビドラマで「ER」などが放映されていることもあり、ある程度はご存知かと思います。救命救急センターは生死に関わる極めて重症度の高い方々(いわゆる3次救急)への対応をおこなうところです。従って救急車による搬送で患者さんを受けています。一般の患者さんが「おなかが痛い」といって受診できるところではありません。

1次・2次救急とは何？

1次救急とは、一般家庭において対応できない切り傷などの外傷、風邪による極端な高熱などが相当します。病院での処置や点滴、お薬を出してもらって帰宅できる状態を言います。それに対して2次救急は入院治療や手術が必要な病状の場合になります。例えば肺炎や脳炎、虫垂炎といった病状の患者さんが対象となります。一般的に夜間・休日で圧倒的に多いのは1次救急です。そのなかに2次救急に相当する患者さんが含まれている場合もあります。

救急患者さんと救急外来

一般に皆さんが体の調子が我慢できないほど悪くなり、徒歩あるいは自動車などで来院される場合、医療スタッフは救急患者さんと認識します。救急患者さんは昼夜問わずにおいでになります。その方々を診察する場所が救急外来です。日中であれば一般外来を受診する場合もあるでしょうし、とても外来で待ってられないほどの苦痛や状態の悪さであれば、救急として別に診察することもあります。医療スタッフが病状を診た上で、必要に応じて救急対応をおこなっています。

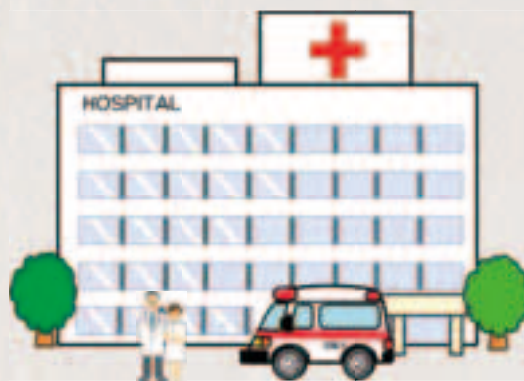
夜間・休日の救急患者さんは救急外来を受診していただきます。当センターの救急外来は本来は2次救急を扱うことになっています。川口市には広報かわぐちに掲載されているように救急診療当番医の先生方がいらっしゃいます。1次救急はこの救急診療当番医の先生のところを受診してください。その上で、必要があると判断されれば、当センターをはじめとして2次救急を担当している病院に紹介していただけます。

夜間休日の救急外来はどんな状態なの？

これは昼間おこなっている外来とは基本的に違うものです。何が違うかといえば、まず第一にスタッフ体制が違います。すなわち当直体制をとっていますので、全科の医師が揃っている訳ではありません。また検査系も当直体制ですので、検査科も画像診断センターもスタッフは1ないし2名しかおりません。そのために昼間と同様の検査は実施できません。看護師も救急外来には

2名しかおりませんので、診察室では十分な対応はできません。第二に提供できる治療にも限度があります。まず、お薬が必要な場合にお出しできるのは基本的に1日分のみです。これは救急外来での診療はあくまでも応急対応ですので、翌日にかかりつけの先生のところを受診することが前提となっているからです。

基本的に翌日まで待つことができない、あるいはどうすることもできない不調などへの応急対応です。そのことをご理解の上、受診していただきたいと思います。



「コンビニ受診」は避けてください!

受診される方の中には、昼間から具合が悪かったけど忙しかったから夜間にこられたという方、昼は待ち時間が長いから夜間に来たとおっしゃる方などもいらっしゃいます。しかし今まで説明してきた通り、当センターは「コンビニエンスストア」のように24時間対応を目的とした病院ではなく、夜間は救急のみの体制をとっています。1・2次救急の患者さんが大勢来院されるなかに、実は重症な方がいらっしゃる場合もあります。この方たちを適確に診断し、治療することが私たちの責任です。しかし、いわゆる「コンビニ受診」が増えると、「急病や事故の患者が後回しにされる」「患者がたらい回しにされ診てもらえない」など本当に救急医療を必要とする患者さんの生命に危険を及ぼす場合があり、なかには死に至らしめる結果となる場合もあります。

この現状を踏まえ、救急診療を必要な方が必要な時に受診し、必要な医療の提供を受けられるように、救急外来を受診する患者さんに以下のことをお願いします。

救急外来を受診される患者さんへお願い

まずはかかりつけ医にご相談ください。夜間・休日でかかりつけ医の先生と連絡がつかない場合は、川口市内の救急診療当番医を受診してください。救急で受診したほうが良いか判断に迷う場合は、救急診療当番医あるいは当センターでも結構ですので、電話でご相談ください。当センターに電話でご相談いただいた場合、状態に応じて市内の救急当番の受診や、症状に合わせて翌日の外来の受診を勧める場合もあります。また当センターの当番医の状況、来院されている患者さんの状況などを勘案して、別の病院を紹介する場合もあります。

川口市救急診療当番医（広報かわぐち）

埼玉県救急医療情報センター：048-824-4199

『お薬手帳』 携帯して病院へ

クオリティマネジメント室 坂田 一美

近年、どこの薬局に行かれても「お薬手帳をお見せください」と言われませんか？

この「お薬手帳」、どんな意味を持っているかちょっと考えてみて下さい。

医療機関を受診(外来受診)すると処方箋が出され、近隣の薬局で薬を調剤してもらい、受け取ります。薬はさまざまな薬効をもっていますが、同時に副作用なども有しています。薬を一種類だけ服用している場合には問題がなくとも、ほかの薬と合わせて服用すると副作用がでたり、あるいは効き方が悪くなる場合もあります。そのように薬同士には相性があり、組み合わせによっては処方・調剤してはいけないものもあります。一人の先生にずっと診療してもらっている場合は、その先生が十分に理解して対応していただけますが、複数の先生(専門が違ような場合)の診療を受けている場合、それぞれの先生は患者さんご自身が普段何を服用されているかまでは理解できません。そこで重要な意味をもつのが「お薬手帳」です。これには調剤してもらった薬局から渡された薬の説明書を貼ることができ、これを見ればどのような薬を服用されているか一目瞭然となります。そのなかで薬の組み合わせを考えて医師は処方することができます。

また入院する場合にも「お薬手帳」は重要です。まず第一に手術をしなければならない時です。手術にあたっては術前には服用をやめなければならない薬(いわゆる血液さらさら系の薬が代表格)があります。術前に中止すべき薬を服用されているかを確認し、その場合に該当する薬の服用中止の説明をする時にも、「お薬手帳」は役に立ってくれます。

実際、「お薬手帳」がないまま、ご本人のお話

だけで薬確認をすませたケースの中には、入院したもののその直後に薬の服用が判明して、手術延期・即日退院となってしまうこともありました。さらに入院目的の病気に対しての薬は病院から出されますが、それとは直接関係しない薬については、普段服用されている薬を持参していただきます。そのような薬がある場合は、できる限り入院期間に不足が生じないようにかかりつけの先生に処方してもらって下さい。万が一入院が長引いて、薬が不足したような場合も、「お薬手帳」があれば、速やかに病院から代わりの薬を出すこともできます。

日常的に薬を服用されている方は病院を受診されるときには、外来・入院に関わらず、忘れずに「お薬手帳」をご持参ください。

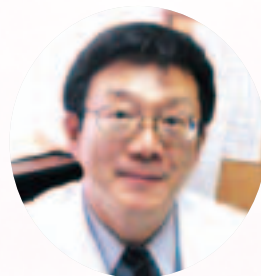


院長就任のごあいさつ

平成26年4月1日付で川口市立医療センター院長を拝命いたしました大塚正彦と申します。院長という大役を拝命し、その重責に身の引き締まる思いです。

私は開院当初より外科医として主に消化器がんの治療そして腹膜炎等の救急医療に携わり、さらに当院が地域がん診療連携拠点病院に認定された際の緩和チームの立ち上げにも関わって参りました。

当院は救命救急センターを併設し、開院当初より地域の急性期医療を担う病院としてスタートし、「埼玉県基幹災害医療センター」「地域周産期母子医療センター」「地域がん診療連携拠点病院」の指定のもと地域の急性期医療に邁進して参りました。今後もこの方針を貫いていく所存です。しかし医療の世界でも近年効率化が叫ばれ、機能の集中と役割分担が強く求められるようになってきています。急性期を担う病院では平均在院日数のさらなる短縮等が求められています。しかし、この様な



院長 大塚 正彦

状況の中でも当院では安全で質の高い、かつ高度な医療を患者さんに提供するため全職員が一丸となって取り組んでいます。例えば外科系では現在高度化が進み、さらに低侵襲手術が求められています。当院でも外科系各診療科で鏡視下手術を導入し、高度ではありますが患者さんに優しい手術に積極的に取り組んでいます。また年々減っていく在院日数の中でも、一人一人の患者さんが心の安らぎを感じていただける優しい医療を提供するため、多職種協働によるチーム医療に力を入れています。

今後もまた川口市立医療センターが地域医療にさらに貢献できるように努力して参りますので、皆様のご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

採血・生理機能検査総合受付システム導入へ

検査科 総技師長 鈴木 忠男

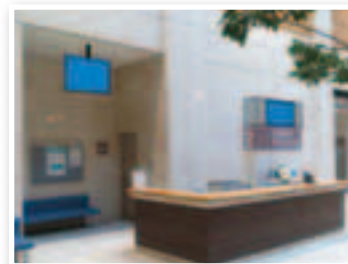
現在、採血・採尿および生理機能検査の呼び出し・誘導は口頭で行っていますが、より分かり易い案内を目指し、採血・生理機能検査総合受付システムを9月中旬を目途に導入することになりました。

システム導入後は、受付機での整理券・尿コップ発行、順番や待ち時間の確認が出来るようになります。呼び出しは大型ディスプレイでの案内となり、プライバシーにも配慮した運用となります。採血室内に入られた後は、採血テーブルごとに整理券番号が表示されますので、表示されたテーブルにお越しください。そのテーブルでの採血になります。

このシステム導入により、患者様がお持ちいただく整理券の枚数が増えますが、採血時の患者・採血管認証が実施でき、より安全に配慮した仕組みとなります。生理機能検査においても同様の受付システムを導入し、検査種別毎の各検査室への誘導をさらに円滑に行う予定です。

また、採血室・生理機能検査室内のレイアウトも変更します。生理機能検査は全て廊下からの出入りとなります。心電図検査室では、カーテンをパーテーションに変更し、患者さんのベッドからの転落防止、プライバシー保護の効果を向上させます。

システム導入後は、ご協力を宜しくお願い致します。



検査科

部署紹介



検査科は血液検査や心電図検査をはじめとしてさまざまな検査を行っています。その内容は、血液検査を実施するための採血業務、採取された血液や尿を検査する検体検査、輸血、喀痰や便・血液中に含まれる細菌を調べる細菌検査、採取された臓器・組織を調べる病理検査、さらに心電図・脳波・肺活量などを調べる生理機能検査、胸部や腹部など体のなかを調べる超音波検査など多岐にわたります。このように多岐にわたる検査を実施しているのは、臨床検査技師という国家資格を有するスタッフ（総勢40名）で、国家資格に加えて、認定資格として2級臨床検査士、認定輸血検査士、認定血液検査士、超音波検査士、心電検査技師、細胞検査士、糖尿病療養指導士、臨床工学士などの資格も取得しています。それぞれの専門性を持った技師が各検査を担当しています。さらに看護師や事務職員が非常勤職員として側面からサポートしています。

検査科は『検査科は「臨床医に対して価値ある診療情報の提供」という手段で診療に参加し、患者さんの生命・健康を守ります』という理念を掲げています。この理念を実現するために、日々進歩する検査法を取り入れ、より良い検査システムの構築を目指し、医師さらに患者さんへの「正確な検査結果を迅速に報告する」ことを実践しています。さらにはムダのない効率的な業務運用を目指し、日々実践しています。各部門の特徴を示します。

採血部門

1日平均250名（約200～300名以上）の外来患者さんの採血、入院患者さんの採血管の準備を行っています。また採血にあたっては間違いを予防するために患者さんの名前確認を徹底して行っています。

生理機能検査

人に優しく、的確な検査結果が出るように検査を実施しています。また、緊急検査にも対応しています。

検体検査部門

血液や尿の分析検査全般を行っていますが、検査は専用の機器が自動で行います。技師はそれらの機器の十分な活用と出てきた結果の確認を行い、間違いが発生しないよう細心の注意を払っています。

輸血部門

大学等の大病院では輸血部として独立するくらい大事な部署です。当センターでは専門資格を有した技師を配し、適正で安全な輸血を実施しています。また特別な血液型の患者さんにはその旨を記載したカードをお渡しし、いつでもわかるようにサポートしています。

細菌検査部門

インフルエンザ、MRSA、結核などのさまざまな細菌の種類の同定や治療薬選択のための検査を行っています。さらに院内感染を防ぐための活動も行っています。

病理検査部門

手術、あるいは検査で採取された臓器を顕微鏡を用いて診断を行っています。患者さんの身体から摘出されたものは何でも確認するのが原則です。術中迅速診断（手術中に10～20分で行う診断）は「迅速かつ正確に」をモットーにしています。さらに死因究明や治療の適正をみるために病理解剖も行っています。

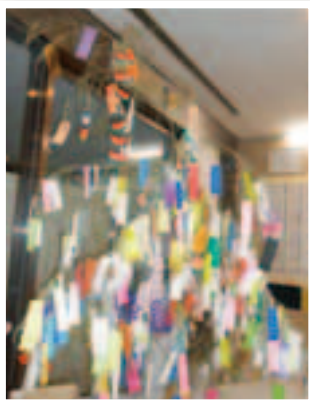
健診センター

採血に始まり、健診に必要な種々の身体計測（体重や身長など）、心電図検査、超音波検査、眼底検査などを担当しています。

七夕コンサート

7月4日（金）午後5時から七夕コンサートが正面ホールで開催されました。毎年恒例のコンサートに入院患者さんやご家族の方々、職員など180名の聴衆が集まりました。

コンサートは長年当センターのボランティアコンサート



に携わられている石井英子さんの進行により「瑠璃色の地球」の合唱で始まり、コーラス、テノールの歌唱やピアノ、ファゴットの演奏などが披露され、最後は職員のハンドベルの演奏も加わり「たなばたさま」を全員で合唱して終了しました。

また、会場と隣接する正面玄関近くには笹が置かれ、患者さん達が願いを込めた短冊を笹に飾り付けている姿も見られました。

この日のお天気は、残念ながら一日小雨が続いていましたが、大勢の皆さんにお集まりいただいたおかげで、梅雨空にも負けない楽しい七夕コンサートとなりました。



医師の交代のお知らせ

新任



フルイチ モトヒコ
古市 基彦
7月1日付
外科 副部長
川口周辺の市民に貢献できるよう努力いたします。



マツモト ミチノリ
松本 倫典
7月1日付
消化器外科 医長
新座市出身です。一所懸命頑張ります。



オノ シン タロウ
小野 真太郎
7月1日付
小児科
5年目小児科医師の小野です。よろしくお願いいたします。



ハラ ダ アツシ
原田 篤
7月1日付
外科
新任の原田と申します。よろしくお願いいたします。



タカサワ レイ コ
高澤 玲子
7月1日付
小児科 医長
子供達と仲良く楽しく診療したいと思います。



フジワラ ユウ キ
藤原 佑樹
7月1日付
消化器外科
よろしくお願いいたします。



ニシムラ アキラ
西村 聡
7月1日付
新生児集中治療科
赤ちゃんのご家族の笑顔のために精一杯頑張ります！

退任

小笠原 弘二

6月30日付
外科 診療局長
今後も呼吸器外科は2人体制ですので安心ください。

滝島 茂

6月30日付
小児科 医長
菱山 富之
6月30日付
小児科

小出 正樹

6月30日付
救命救急センター
伊藤 恵理子
6月30日付
外科

伊藤 栄作

6月30日付
消化器外科
原 圭吾
6月30日付
消化器外科

小野寺 修一

7月31日付
救命救急センター 医長

四季の移ろい

季節を感じて、リフレッシュ

新年度がスタートし4カ月余り、あっという間に過ぎた感があります。医療センター隣には自然豊かなグリーンセンターがあり何時でも季節を感じることができます。

春は見沼用水沿いの桜が満開となり草花が盛んに咲き誇り、夏はうっとうしい梅雨が空け、夏空に入道雲、樹木の青葉が益々色濃く夏空に映える時期です。秋は木の葉が色付き、冬は木枯らしに落ち葉が音を立てて舞い踊る姿を見ることが出来ます。

医療センターに2回目の勤務となってから今年で3年目、通算すると8年目の季節を迎えることとなりました。医療センターに勤務した当初は、医療の現場を初めて経験することになり多くの不安と戸惑いもありました。市の仕事は、教育、環境、経済、福祉、保健、税、建設、都市整

備など多岐に亘ります。しかし、医療の現場は特別で、医療の専門用語、疾病傷病名、医療機器の名称など市から異動してきた者にとっては初めて耳にする言葉だらけです。事務職には、市の考え方とは違った臨機応変な対応や決断力を求められます。でも、職場環境に慣れればやりがいのある魅力的な職場です。診療の場面でしか接することがなかった医師、看護師、コメディカルと意見を交わし楽しい事や辛いことなど多くの経験をしてきました。

最近、仕事の合間に窓の外の景色や樹木を何気なく見たりしています。そんな時には季節と時の移り変わりを感じます。仕事にストレスは付き物。心をリセットするために周りの自然に目を向け一時仕事を忘れる時間を持つようにしています。嫌な事や困難な問題を抱えたときに、心を落ち着かせ新しいアイデアや解決方法が見つかることもあるかなあと思い始めた取り組みです。大きく深呼吸をしてなんとなくほっとする時間でもあります。自然環境に恵まれている職場だからこそ出来るリラックス方法です。(ゆ)

ミニギャラリー3カ月

5月はアートサラダの「浜田澄子展」、6月はクリニカルアート(臨床美術)の会の作品展、7月は齋藤元男さんの「世界遺産写真展パートⅢ」でした。

浜田澄子展は見るだけでも楽しい色のハーモニーを表現してくれました。クリニカルアート作品展はどれもが楽しめ、幸せな気持ちになる作品を展示してくれました。写真展は毎回、古代から現代へのメッセージを発信し続けてくれています。

「どの作品もすばらしく、心があらわれました。」という感想がよせられています。

なお、ミニギャラリーの展示内容は医療センターHPでもご覧いただけます。

◆浜田澄子展 (5月)◆



◆クリニカルアート展 (6月)◆



◆世界遺産写真展 (7月)◆



学校が夏休みに入り、日中に子供たちの姿を目にすることが多くなりました。元気に遊んでいる様子を見るとこちらも嬉しくなりますね。

自分が子供のころと比べると年々夏の暑さが厳しくなっているように感じます。まだまだ暑い日が続きますので、こまめな水分補給を忘れずにお過ごしください。

発行責任者 川口市立医療センター 栃木 武一

編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180

☎048-287-2525(代表)

HP <http://kawaguchi-mm.org>